

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

881

小児成育医療支援事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	2	地域医療・健康危機管理体制の充実
取組方針	2	安心安全な医療体制の構築

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	保健衛生費		
	目	地域医療対策費		
	大事業	地域医療対策事業		
中事業	小児成育医療支援事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	総務企画課	藤原 大悟 488-5108
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	子供の心のケアを専門的に扱う医療従事者を要請・確保し虐待等により心のケアを要する子供及びその家族に対する身体的・精神的健康を支援する小児保健医療体制を確保する。		子供の虐待の増加や子供に関わる事件事故が多発する中、子供に身体的・精神的健康を支援する保健医療体制の整備が必要で、この事業は子供の心のケアを専門的に扱う医療従事者を養成・確保し、虐待等により心のケアを要する子供及びその家族に対し、身体的・精神的な支援を実施している。			
事業内容	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	
	和歌山県立医科大学に小児成育医療支援業務の運営と実施を委託する。	和歌山県立医科大学に小児成育医療支援業務の運営と実施を委託する。	和歌山県立医科大学に小児成育医療支援業務の運営と実施を委託する。	和歌山県立医科大学に小児成育医療支援業務の運営と実施を委託する。	和歌山県立医科大学に小児成育医療支援業務の運営と実施を委託する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	0	22,763	0
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	3,103	1,785	1,635	1,480	629	6,129	629	0	629
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3,103	1,785	1,635	1,480	629	6,129	629	0	629
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	22,763	0	22,763	0
所要人数(人)	正規職員	0.40	0.23	0.21	0.19	0.08	0.78	0.08	0.00	0.08
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	小児成育医療支援事業委託料22,763千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
小児成育医療研修会及び講演会数	回	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	2	6	6		
		達成度(%)	40%	120%	100%	%	%
心のケアに従事する医師及び相談員数	人	目標値	7	7	7	7	7
		実績値	7	7	7		
		達成度(%)	%	100%	100%	%	%
心のケアにかかる相談件数	件	目標値					
		実績値	1671	1476	1575		
		達成度(%)	%	%	%	%	%
		目標値					
成果指標		実績値					
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	小児育成医療に対する関心は高まっており、内容を充実させていく必要があると考える。
見直し・改善内容	相談は増加している。特に、新型コロナウイルス感染症流行の後、リモート授業ではなく毎日通学するようになったことで小学生の相談が増加している。今後、相談員の増員や心理的ケアを行う相談室が不足しているため、部屋の確保が必要となる可能性がある。コストはできる限り現状維持しながら、内容の充実を図る。